

ART GALLERY

北陸銀行アートギャラリー 富山大学地域連携推進機構プロジェクト

富山大学芸術文化学部教授 後藤 敏伸

平成22年度から継続されているこのプロジェクトも6年が過ぎようとしている。その間、延べ20名の教員、大学院生が北陸銀行五福支店アートギャラリーに於いて個展形式の作品発表を行ってきた。

その効果は芸術文化学部、北陸銀行、富山大学、それぞれに有意義な結果を残したものと思われる。三者の広報としての意義、文化理解とその実践等である。ただ、出品を依頼される教員や院生諸氏には、多々出品要請やコンクール出品がある中での依頼故、ご無理を聞き入れて頂く結果にもなる。趣旨と意義について、その効果の理解も含めて出品協力願っているのが現状と言える。

ここで、改めてアートギャラリー展示メンバーを紹介しておくことにする。

第1回	後藤敏伸（具象彫刻）	芸術文化学部教授
第2回	安達博文（水彩画）	芸術文化学部教授
第3回	斎藤晴之（漆造形）	芸術文化学部教授
第4回	後藤千香（木炭平面作品）	芸術文化学研究科1年生
第5回	西川紗絵子（具象木彫刻）	教育学研究科2年生
第6回	桜井裕子（アクリル画）	芸術文化学研究科1年生
第7回	松井麻里子（木工芸）	教育学研究科2年生
第8回	江藤玲奈（水墨画）	芸術文化学研究科2年生
第9回	中道枝里（油画）	芸術文化学研究科1年生
第10回	涌井祐介（油画）	芸術文化学研究科1年生
第11回	松下奈緒美（油画）	芸術文化学研究科1年生
第12回	松垣仁希（金属工芸）	芸術文化学研究科1年生
第13回	後藤敏伸（抽象立体造形）	芸術文化学部教授
第14回	井澤郁子（テンペラ画）	芸術文化学研究科2年生
第15回	森田志宝（漆造形）	芸術文化学研究科2年生
第16回	橋本朋香（アクリル画）	芸術文化学研究科2年生
第17回	森本倫子（石彫・金属造形）	芸術文化学研究科1年生
第18回	御旅屋宏輝（ボールペン画）	芸術文化学研究科1年生
第19回	畔地拓海（漆造形）	芸術文化学研究科2年生
第20回	森井大仁（油画）	芸術文化学研究科1年生
第21回	江越知比呂（漆造形）	芸術文化学研究科2年生



写真1 教育学研究科2年生(実質上は芸術文化学研究科2年生)の展示終了後の一コマ

以上のメンバーで作品発表を行ってきたが、扱う素材や表現法は多岐に渡り芸術文化学部の多様性を窺い知ることにもなる。添付写真は展示状況や、展示作業風景になるが、立体と平面の交互展示を心がけてきた。出品者が展示作業を含め作品意図の伝達等、責任を持ってプレゼンテーションを行なって行くことに多大な意味を持っている。

本プロジェクトの経緯や詳細については、GEIBUN006（平成24年発行）の学部紀要に記述してあるので参照できることになっている。

この北銀アートギャラリーは、富山大学本部正面入り口の通りに面し、ストリートギャラリーとして整備されていることから車窓からも目に着き、人通りも多く深夜0時までライトアップされていることから、通常のギャラリーに比べればその効果は述べるまでもない。これまで、新聞、TV等でも紹介されている。北陸銀行が所持していたミレーの絵画を展示するための美術館を開館したのも、このプロジェクトが進行し始めた直後であることも付記しておく。

芸術文化の広がりが点から線へと、さらには面へと、銀行という特殊な支店形態を活用し行われて行く現象は、大いに推奨されるべきである。そこへ芸術文化学部のキュレーション実績と創り手としてのノウハウは確実に生かされて行くはずである。

北陸銀行アートギャラリー展示については学部ご当地の高岡市支店に於いても同様の取り組みがなされ、芸術文化学部准教授高島圭史（日本画）の実施責任のもと、学部造形芸術コース学生によりユニークな展示がなされ評判を呼んでいる。



写真 2、3 出品者本人による展示作業風景



写真 4、5 展示終了後のギャラリー